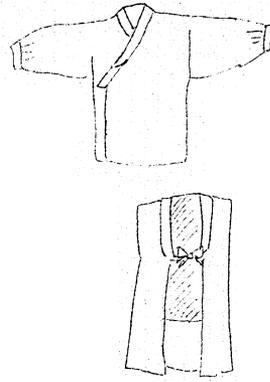


なくても、立居が楽で暖いでせう。それから鉄色の無地の羽織ね、あれも解きましたが、それはくひどい痛み様で、普通の羽織に再生させるのは六理かと存じます。一応洗濯屋に出して洗ひ張をさせますが、よいところ丈とつて、腰までの着物と袖なしチャンくコを作つたらどうかと思ひますが如何でせう。



変てこな事を書いてゐるうちに大さう長くなりました。今日はこれでやめませう。お身体に注意し病氣にならぬように。

9月7日夜。

東京空襲が確実になればなる程、あなたがそちらに独りとどまつてゐる事の不安がまして来ます。其の場合、交通は勿論とまるでせうし、食料不安其の他から暴動みたいな形ものが起り得る様にも思へます。直接空襲に依る生命の危険をまぬかれ得ても、前記の様な事態に立ち至つたらば、と、とても心配でなりません。何とかそれを避け得る事が出来

こんな形のものです。これにモンペを穿けば(下には毛織のシャツ、ズボン下)、冬の勉強用にはたもとのあるものより、手が動かしよくて好都合でせう。格好としても中々シヤレタ格好です。布があまつたら羽織にも袖をつけてもよいし。一寸、国民服第何号型みたいですが、早川さんたちが羨やましがると思ふけれど、如何？

洗ひ張させて置きますから、何か他にこんな風にと云ふ希望あつたらお知らせ下さい。どてらでも普通の羽織でも(但し方々折目が切れてゐるので、寸法が縮みますが)。私の考へた格好の羽織の方には背中にまわたを入れようと思ひますが。モンペの方は前ぼたんをつけますし、寸法はこの前計りましたからうまくゆくでせう。ずぼんが痛まなくていいですから、出来たら愛用して下さいね。色はあの上に紺かこげ茶をかけて緋が目立ぬ様にします。よく猪熊弦一郎たちがこんな和服を着たでせう。若しかしたら突飛の様にお気に召さないかも知れませぬ。

9月中時間割

日	土	金	木	水	火	月	
	経済入門	リン ほん カー ヤ ン ク	ア メ リ カ 史	水 経 済 入 門	リ ン カ ー ン 訳	ア メ リ カ 史	午前中
	ローザ 経済史	グ ラ ン マ ー	ア メ リ カ 史	ローザ 経済史	グ ラ ン マ ー	ア メ リ カ 史	午後
	地代論	モ ル ガ ン	ア メ リ カ 史	地代論	モ ル ガ ン	ア メ リ カ 史	夜

ないでせうか。其の点、あなたは勿論考へておありでせうけれど、どんなお考へですか。案外、皆、大丈夫と云ふのんびりした考へ方をしてゐるのぢやないかしら。空襲よりも召集の方を恐れてゐましたけれど、今日ラジオなど聞いてゐると、空襲の方がより恐ろしいと思へて来ます。対策あるの？ どうぞあまり心配させない様にして下さい。

セルの単衣や緋の単衣、そろ／＼御入用でせう。送りませうか。それとも洋服でとをはませうか。至急お知らせ下さい。御入用ならクリーニング屋をせかします。あはせの着物はどうしますか。縫つておきませうか。

9月の時間割を作りました。ユダヤ人問題は一応すみましたから、あの代りにモルガンの古代社会を組み入れ様と思ひますが、どうでせう。もつと適切なものがあれば、それに代へ様と思ひますが。今度のは、前の様にチビ／＼区切らず別紙の様にしました。何か意見きかして下さい。

キプリングの「印度の放浪児」があります、どうでせう。よむカチがあるかしら。ネールによると、キプリングは英帝国主義の手代だと書いてありました。ネールの第一巻、お父さんがよみ面白い／＼と感心してゐましたので、これはあぶないと思つて（感心すると人に借すので）、早速取り返して桃ちゃんに送りました。目下、お父さんは第二巻をよんでゐます。

十日から秋期托児所が始まります。又ふうちゃん先生にゆくでせう。さうすると私は又、勉強の時間がへつて来ます。悲しいことです。

本は進ちよくしてゐますか。それからダイヤモンドの原稿は出来ましたの。まとめたのを見せ下さる事が出来るなら見せて下さいませんか。尼ヶ崎の家で書きかけの一寸よみました、

後をつづいて見たいと思つてゐますので。

暫く休んでゐたから、いろいろ忙しいでせうね。でもなる丈、すいみんはたつぷりとする様になさいね。どうも今年になつてから猛烈に、酷使する様な事ばかりつづいてゐますもの。⑤⑥⑦⑧⑨⑩⑪⑫⑬⑭⑮⑯⑰⑱⑲⑳㉑㉒㉓㉔㉕㉖㉗㉘㉙㉚㉛㉜㉝㉞㉟㊱㊲㊳㊴㊵㊶㊷㊸㊹㊺㊻㊼㊽㊾㊿として食料はちやんと必要なものをとる事が出来ないのですから、せめて睡眠なりと採る様にして下さい。何が起つても身体が駄目なら、全くし様がありませんもの。

私は疲れが出るかと思ひましたがたいした事なく、一寸だるい位ですから、御心配いりません。来週までには心身共にすつかり元気に積極的になれるでせう。それから、—まだメンスになりませんので、或はと思ひますが。予定は二日の日だつたのですが、まだわかりませんね。若し確実ならうれしいと思ひます。育てるのはいろんな点で大変ですけれど。では今夜はこれで。

7日夜10時

幸子

幸子から謙一あて（一九四四年九月八日朝付け、同日の消印）

今日は素晴らしい秋日和です。湿気は全然なく、空はカラリと晴れてゐるし、山の色は紫紺いろ。ずつと前、確か私達が始めて一諸（諸）にやつて来た、あの頃の様な秋の日です。日陽（ハル）ざしは紫外線が強く、涼しい割に直接当たると焼きつく様な、芯まで透る様な暑さを感じます。目の前一杯にひろがつた山脈、青い空、くも、風、なんとすばらしい秋の日でせう。これで世界中が砲煙につつまれ、血を流し合つてゐる様には思はれません。

こんなすばらしい秋の日を、こんな気持で二度と味はふ事があるでせうか。もつとくく年とつて感情も穏かになり、思ひやりも厚くなつて、人生と云ふものの本当の味を知る頃に、又此の様な秋の日に逢ふ事が出来たら、どんなに感慨（概）深いでせう。そんな事を考へ乍ら眺めてゐます。あなたは又々毎日、仕事や雑用で忙しいのでせうか。充実した毎日を送つて満足してゐられるのでせうね。

食べ物の方は如何ですか。粉はもう何日分位ありますか。此の頃つづけて三人位が一貫匁（匁）つつ粉をくれましたので、石油缶一杯にメリケン粉がたまりました。殆んど毎日、たつぷり使つてお八ツを作つてゐます。あなたの持合せがなくなり相な頃には送りませう。もうすこし涼しくなつて、食べ物がかくさなくなつたら、牛肉を買つて来て佃煮を作つて送ります。今月中はまだあぶないでせうから。

あの肉屋（吉田屋）も此の頃チヨイ／＼休み勝ちになりました。来年の今頃には、もうなくなるかも知れませんがね。それに値段もドン／＼登つて来ました。

笠信太郎とか云ふ経済学者が鼎のプールのそばとかに越して来た相です。岸田国土もプールのそばとか。飯田の街にも東京人がチラ／＼見えます。

今日はお母さんが銀行ゆきです。不うちやんはどつかわるいと云つてねころんでゐます。それで今日もおさんどんを致しました。とう／＼四日から九日までの一週間は、まとまつて勉強出来ず、お勝手などで小説の立ちよみ位に終りました。

私ね、こつちへ来てから大部性質（分）が變つた様です。まづ、あまりはしやがなくなりました。それから口数がへりました。快活さもへりました。顔も大人っぽく真面目くさつて来て、めつたにお化粧もせず、時々鏡を見るとひねこびた、黄いろい骨張つたおでこやあごが目について、トンとおしやれをする気持も消えてしまいました。年にこだはず好き方題（題）の事を云つたり喋つたり行ふ事が出来なくなつた關係でせうね。こちらでは何処の誰、年はいくつ、どんな経歴とわかつてゐるんですから、そんな事の考慮なしには何も出来ません。年上は両親丈ですから、あとは皆、私より若い人ばかり、ワア／＼大さわぎも出来ません。知らぬまにもつともらしい顔つきで、もつともらしい事を云はねばならぬらしいです。時々、前の様にキヤツ／＼と笑つたり、年がひもなくお転婆さわぎを誰に遠慮もなくしたくなります。それから誰にも甘へる人もないことも相当淋しい事（事）のようです。

明日から又思ひ切つて好き勝手にしようかしら。まあ／＼とてもそんな事は出来かねる。おとなしくもつたいぶつて暮しませう。

では今日はこれでさようなら。風邪を引かないように。洗濯ものはめんどうでも送つて下さい。きれいにして修繕してさしあげます。

さちこ

幸子から謙一あて（一九四四年九月八日夜付け、九日の消印）※

八月八日、雨。

今日お父さんの云ふには、家の前の上島さんの二階を貸すかも知れないとのこと、十畳二間で貳拾円位までになるらし

いから、聞いて呉れるとのことでした。どうでせう。うまく行ったら借りませうか。でも部屋を借りて別世帯にすると、部屋代の外、食費、電灯代、町内費等々かゝりますけれど、どうでせう。部屋は中々いいとお父さんは云つてゐますが。お返事をまちます。あなたが来なければ、あさちゃん、いねちゃんと同じと思ひます。

今日は近所の葬式で不二ちゃんが一日本伝ひにゆきましたので、私は夜の八時まで早苗ちゃんの専属子守で、本一つよめませんでした。従つて、これと云つて書く事ありません。

又々鼎村では都市からの妊産婦の割当が有つて、部屋に余祐あすのある家では一部屋位提供させられるとか云ふ話です。帰つて来てから殆んど連日、家事的雑用のために勉強する時間が採れず、困つて居ります。部屋でも借りられると、そんな時は都合がよいでせうね。但し炊事や勤勞奉仕に出る時や、サイケンの割当の時は困るでせう。

あなたが帰つてからもう明日で一週間です。事務的雑用のいそがしさからは解放されましたか。※

今朝、下駄を送りました。とても粗末な下駄で、す足で穿くととげが刺さりさうな位な代ものです。すき間に林ごを三個入れました。看護婦の三島さんが家へ帰つた時、持つて来てくれたものです。

昨日は上郷の篠田さんが来て、姫宮の山奥へ四里もはいつたところで採つて来たとか云ふ松茸をくれました。初もので珍らしく、おつゆにして食べました。東京にゐては、今年は松茸は六理ろりでせうね。それから又、岩手県の川端さんが、だしにする小肴を一箱送つてよこしましたから、何か外の物と一諸ひとにすこし送りませうね。

朝ちやん訪ねてゆきましたか。訪ねて行つたら、部屋も仕事もあり相ですから、早速疎解そげの手筈をする様にすゝめて下さい。

あなたが帰つた後はどうもぼんやりして、暫く何も出来ません。此の前も十日間位勉強出来なかつたのです。此の前の時はいろいろ心配もありましたし、絶望的な気持で本当に情なくなりましたが、今度はそんな事はありませんが、それでも淋しいさびような落ちつかぬ様な気で、どうも今の生活はまにあはせて、何かをまつ間のほんの一寸のものの様に思へてなりません。こんな事では本当に駄目ですね。私は全く此のころは前よりも、もつとくゞだらしくなりました。変な手紙ですけど、毎日書かうと思つてゐますから—今日の分はこれでおしまひにませう。 さち子

※以下の八月八日記の手紙文（実は九月八日記—後掲の謙一発九月一三日書簡を参照）は、九月九日付け、一〇日消印の封筒に入っていたが、その一つ前の手紙の封筒は九月八日夜付け、九日消印で、中の手紙は九月九、一〇日に記されていた。何らかの事情で二つの封書の中身

が入れ替わったものと考えられる。ここではそれぞれの手紙文を本来の封筒に戻す形で記載しておいた。

※※封筒の中には便箋四枚が入っており、これより前の文は三、四枚目、後のそれは一、二枚目に記されていた。ここでは前後を交替させて三、四、一、二枚目の順で記載したが、便箋に番号が付されておらず、かつ四枚目の末尾と一枚目の冒頭の文章上のつながりが確認できないため、その間に欠落がある可能性も否定できない。

謙一から幸子あて（一九四四年九月七〜九日の記）

九月七日（木）雨。

昨夜は実にむしあつちと思つたら今日は雨。

今日の雑炊は複雑でした。米、ササゲ、サイインゲン、ナス、ズイキ、魚粉、ジャガイモ、大豆、凍豆腐（昔中村君にもらつて虫のついたもの、少々苦かった）、ミソ、赤チソ（粉末）^②等。今夜から蚊屋をやめ、線香だけで寝ます。今夜は涼しい。あなたの九月四日、五日の手紙みました。

山本村と云ふのはよささうだけれど、あさちやんと二人で当分住めますか。僕も今年の末ぐら^③いまでに召集が来なければ信州へ行く予定ですが、それまで大丈夫ですか。よかつたら、よく調べて、行くといいと思ひます。食糧事情などもよく調べておく必要がありますね。

今日午後いねちやんが、疎開したものがどうか相談がてら来ました。いねちやんは今、余り疎開したくない気持のやうです。仕事をしたいと云ふこと、信州では適当な仕事がないだらうと云ふこと、こちらでしたいことをしてゐて、万一のことがあつても悔いはないと云ふこと、大体かう云ふ風です。僕も何とも返事が出来ないが、大塚の女子アパートが安全なら、こちらにゐても身一つなら何とかなるだらうと云ふこと、新庄君や僕達でよく連絡をとつて、危い日は銀座へ行かぬやうにすれば、先づ大丈夫だらうと云ふこと、その程度のことしか云へませんでした。

所で、僕達が切符買へず一日日程ののびたことが、庶務の方で出張命令を一日のばすことにしてくれて、一日分の日当、宿泊料が出さうです。明日会計へとりに行くことになりました。之はこちらで頼んだわけではない（僕はその一日を、いや大部分を私用に楽しんだのだから）。それでドラクロアのデッサン集（三十円）を買ひたいもの。

結局今度の旅行の費用は、収入、調査会より二一〇円（明日の分以外）、互助会より借用五〇円、母より五〇円、貴女

からの借用二〇〇円、計五一〇円。支出、本代一七五円、みやげ八〇円、他二二五円、計四八〇円。先づ安い旅行と云へるでせうね。ダイヤモンドの原稿は半分出来ました。之の原稿料はまだわかりません。

九月八日(金) 雨。

雨になると水道の出がよくなつていいが、そのかはり火が起りにくい。半時間かかります。調査会でコーライトを沢山買ひこむことになつて、持つて来たのを見ると亜炭なので、庶務課長は怒つてつきかへしました。その電話をききながら僕が一句よみました。

「コーライト思へど今日の亜炭かな」

さすがの大豆もおしまひになりました。ずい分ポリ／＼やつたから。ササゲはまだムシパンや雑炊にたつぷり利用出来ます。煮るとずい分大きくなるので、思はずニコニコしさうです。

ホイットマンの詩を読んでゐます。読めば読むほど好きになる。何と云ふあふれるやうな豊かさ、本当に曠野のやうにひろ／＼して、洪水のやうにたつぷりとはげしく、躍るやうに軽やかに、また、さすやうに鋭く。

「光をそそげ美はしの月よ

そして洗へ傷ましいこの風景を

静かな夜の光の洪水の中に

怖しく膨れあがつた赭黒い顔と

両腕をなげ出し、天を仰いで斃れてゐる者の上に

かぎりない光の洪水を

おお聖なる月よ。」

僕も今詩を心に育てつつある。二つの長い詩です。二つともあなたにささげる。それは我々の生活のうたなのです。もう二ヶ月来、夜空をあふいではその詩を心に育ててゐるのです。その中ペンで書きあらはせるでせう。ホイットマンのやうにうたひたい。この辺では星は割り合ひきれいです。では早くダイヤモンドの原稿を片づけませう。明日また。

九月九日(土)晴。

暫くぶりで晴れた感じがします。たつた一日降つただけなのに。

今朝あなたの六日夜の手紙が、「菊池さん、十四夜」と云ひながら入つて来た郵便屋の手から渡されました。

あなたの氣持を思ひ、僕も山本村とやらへ一思ひに住みに行かうかとさへ思ひました。之は今日のあなたの手紙を見る前からの僕の氣持だったのです。僕はあなたと仕事との板ばさみ、いやあなたへの思慕と仕事への熱情とへの分裂のいたみを、旅行から帰つて以来ずっと感じて落ちつきません。あなたへのこの二、三ヶ月、即ち別居以来次第に復活し募つて来た思慕を実現することは、だが、忽ち生活の不安を呼び起すのです。即ち僕がそちらへ行つてすぐ召集が来れば、留守中の或ひは万一のことあつた後のあなたの生活は、僕の両親と共に住むつもりのない限り甚だ困難になります。たとひあなたが働くにしても。貴女の身体はどんな仕事にもと云ふ程度にはよくなつてゐないのですから。もう一つは、こちらの仕事は、或る程度田舎で出来ぬこともないが、そのためにはもう少し必読の書のノートを作る必要があります(今さしあたり七、八冊あります)、且つは芦野氏の好意に対して甚だ不義理になるのです。この二つを今年の末までに果して、そうして貴女の所へ行きたいのです。それまでに召集も空襲も来ないことを念じつつ。

愛する者の離れることの苦痛は、人間の離れがいかにか大量的に無慈悲に載断され、周囲に余りにも悲劇が日常事になつて、感覚がマヒしたにしても、それでも各個人の全生活を根抵からゆすぶるものあるべきです。僕が詩をつくりたいのは、かうした現実の矛盾に刺戟されてのことなのです。

だがまた若し僕達が今一緒に住んだら、又お互ひに神経を立てあつて、小さい不満や小さいカンシヤクでお互ひを不幸にしやしないかと云ふことも考へられなくはないので、もう数ヶ月別々にゐて自分を訓練することもいいかも知れないとも思ひます。僕は自分の人間的訓練を同僚達との交通の中で企図してゐます。あなたと二人きりでは、ついあなたを不当に傷けるけれど、同僚との間なら、ケンカにしても何にしても独自のやれますから。

今日午後、ダイヤモンドへ原稿を渡し、原宿でカンヅメがどうなつたかをきき、本室で金を受取り、伊藤書店とも連絡しなければならぬので、この辺でやめて、そのまま出すことにします。夜また書きませう。

では元氣を出して、歴史と個人、普通と個別について考へつつ、勉強して下さい。僕も仕事に全力をあげて、あなたと再び共に生活出来る日になるだけ早く来させませう。帰つてから氣持が落ちつかないと、多忙なので、実はまだ家へ手紙も書いてゐないのです。

同封の切り抜きで歴史と云ふものを充分味はつて下さい。

早々

幸子から謙一あて（一九四四年九月九〜一〇日の記、一〇日の消印）

九日、夜八時。

夕食後、永代橋まで早苗ちゃんを連れて散歩にゆきました。七時と云ふのに外は殆んどまつくら、足元も危い位でした。暗くなると小川の流の音が急に大きく聞えますね。もう一寸前に田植をしてゐたと思ふのに、稲は二尺位にも伸びて、稲や麦に特有の重たい甘つたるいにはひがしてゐました。ポヤ〜ツとしてゐた星の光りが一分毎に輝やかしくなつて、橋まで来た時にはすっかり明るく光り始めました。

夕陽の落ちた側の山の線はくつきり浮び出し、目がねを取つて眺めると、モク〜其の線が動く様に思はれました。誰一人通らない、夜露の下りる音がきこえる程です。私たちは今まで、かう云ふ田舎の日暮路を二人で歩いた事はありませんね。

九月十日夜。

今日は九月になつてから二本目のお手紙をうけとりました。其の時私はおさつを食べてゐました。直径一寸八分位もある黄いろい大きいのを。あまくて暑くてうまいのを。あなたにも食べさせてあげたいと思ひ乍ら食べたんですよ。私は此の頃はひどく利己的になつてしまつた様で、一寸自分乍ら嫌な氣のする事が度々です。例へばおさつでも林檎でも小肴でも他所から貰ふと、すぐにあなたに送つてあげたいと思ふのよ。いねちゃんたちや島村夫妻に送らふとは思ひもしないのに。―あの人たちは順調に炊事生活をやつてゐるからと云ふ氣がして、―あなた丈は不自由してゐる様に思へし様がないの。そんな風に心が動くもんだから、自分の亭主に丈親切なと思はれるかも知れないと、自分で思ひすぎるのか氣がひけて来て、向ふで送つてあげたらと云ひ出せばいいと思つたりして、どうも氣持が楽に動かないのです。「これをすこし謙一に送つてやり度いから下さい」と、スムーズに云へないのよ。嫌になるわね。

今日は緋を解いて洗ひ、すこし色をかけました。乾いたら、たいして変つてもゐるぞ―でも新しい布地の様になりました。強いアイロンを当てて、断つて、モンペを縫ひあげました。中々うまく出来たつもりです。丈もたつぷりとりましたし、

中は合はせたつもりです。併し若しかしたらウエストがすこしゆるいかも知れません。さうしたらベルトでめて下さればいいと思ひます。膝当もお尻当もつけましたから、大変丈夫だと思ひます。ポケットも大きいのを一ツつけました。夜になつて一人になつたら、ズボンと代へて穿いて下さると、ズボンも痛まぬし、ひざも楽になると思ひます。冬になつたら其の下に穿く長もも引きを作りませう。メリヤスのズボン下の上に穿いて、其の上に此のモンペを穿けば相当の寒さにも耐へられるでせう。其の上をあのひざかけでまけば、リユーマチも起らぬと思ひます。十一月までには暖いチヤン／＼コの上着を作つてさしあげます。で、モンペは明日送りませう。

畑中特派員の「ソ聯より歸りて」は、一同で大鉢のそばでよみました。大分日本の銃後生活と異ちがひますね。お母さんも感心して「さうでなくちやいかん。前線と銃後と區別する様で、前線に感謝／＼と、口でばかり云ふ様な体制は面白くないよ」などと、キエンをあげて居りました。

森井女史も白田嬢も、あなたのお弟子は全めつですね。白田さんてそんなにひよひはい様なお嬢さんなんですか。私はすばらしく体格のいい人を想像してゐましたのに。

ご忠告通り、お母さんをいら立ゝせない様にして来ましたが、今夜は森藤と云ふずるくて強引な男とお母さんとの一騎うちの事で、チヨイと口をすべらして、お母さんをブンとさせてしまひました。あつと思つた時は、もう云つてしまつたあと。それで、これは悪かつたと思つて、そろ／＼と御機嫌を取り戻しました。この事もよく考へて見ると、お母さんの下手なやり方を批判すると云ふ事を乗り越えて、「私なら、あんな馬鹿な喧嘩しないわ、三分で片くづけてしまふ」なんて、自分の自まんになつてしまつてゐたので、「まだ／＼駄目だつたとザンキ致しました。実際、あなたが歸つてから今日まで、私だつてふうちやんだつて、一度もお母さんを怒らせず、機嫌良くさせて来たのですの。一でも大体に於てもうなをつたらしいから、ヤレ／＼と思ひました。

これから新聞をゆつくり読んでね様としてゐるところです。明日からは積極的に、人にも自分にも誠実である様に改めて出發です。

謙一さま

十日夜十時

では又明日。

幸子

謙一から幸子あて（一九四四年九月九〜一〇日の記）

九月九日（土）晴、夕方、曇。

午前中にやつとダイヤモンドの原稿六十六枚（二百字誌）を書き上げました。きつかり十一回分です。一回分超過したわけですが、こんな風に一回六枚づつをまとめて行く書き方のむつかしさをつくつく感じました。余りいい出来ではないが、一般に知られてゐないことなので、意味なくもないでせう。それに読者層が経済人財界人だから、今度の僕の本とは余り縁のない世界の人々で、学問的な部分を省略したのもやむを得ません。出たら送りませう。

午後、会計へ、旅費追加を受取りに行きました。四十円ばかり追加を貰ひました。帰りに早速二、三の本を買ひ、銀座で栄養をつけました。尤も此の頃の僕の栄養はさう悪くはなく、雑炊も大分いろくは入るし、オヤキパンもたべるのですが、僕の食べ物はいつでも一定期間殆ど同じものが続く傾向があります。ジャガのあつた時はジャガ、ナスが二週間も続いたし、ナス、キウリもずい分続いたし、帰京以来は雑炊がつづきます。雑炊の美味も実は続いてゐるので、この数日はズイキ、ナス、ササゲ、凍豆腐、さやいんげん、今日は之にめうがを入れました。

ところで銀座で食べたものは、鷹の巣の洋食と多喜山の和食です。多喜山の方は交詢社へ行かうとして夕立ちにふられて、ついとび込んだものです。あの辺雨宿りが困難です。鷹の巣はナスのカレイ粉のため（？）とロールキヤベツでしたが、そのロールキヤベツにはちやんと肉がは入つてゐて、中々おいしかった。多喜山の方は、天ぷら、さしみ、やさしい煮、つまみもの、雑炊です。天ぷらは何か魚とおさつ。あそこの天ぷらはいつでも中々うまい。さしみはカツオで、之また久しぶりの美味でした。やさしい煮は大きなコブマキ（中に魚あり）と大ぶりに切つた伊達巻とで、つまみものはこをなご。二人なら一本酒のつく所でした。

雨のやむのを待つて交詢社へ行き、ダイヤモンドへの原稿を託し、都電にもまれて他人の汗で気持の悪い思ひをして帰りました。實際此の頃都心へ出るのはいやです。人々は臭く、強引で、憎くく（憎）なりませんが、その憎さは全く理由のないもので、どの人も皆家に親しい者が待つてゐるのでせう。

経堂の家へ帰りついたのは七時近かつたが、留守にあさちやんが来て一時間ばかり待つてゐたらしく、書き置きがあつて、凍豆腐がおいでありました。いねちやんから此の間借りたふとん袋をとりに来たらしいのに、気の毒しました。

ふとんぶくろといへば、やはり僕のふとんぶくろがないのです。利ちゃんの、ひろちゃんが持つて帰ったのですが、僕のはやはり持つて帰った覚えもなく、ひっこしで家中さがしてやはりなかったのです。何かのついでにさがしておいて下さい。

まだ独立戦争の原稿を完成してゐないのですが、ダイヤモンドの方を一通り片づけたので今日は、寄席中継をきいただけで早寝しませう。

九月十日(日)晴。

昨夜は早く寝たが、今朝起きたら七時すぎでした。ずい分よく寝たもの。火を起して昨夜しつらへておいた雑炊を煮ました。中味はササゲ、凍豆腐、ナス、ジャガイモ、メウガです。それが出来上ると、メリケン粉とココアとササゲとミソとでオヤキパンをつくりました。雑炊は一日分をつくるので、三分の一を大丹にとつて、あとは包んでおきます。夜分だけはもう一度暖めるわけです。おかずは生キウリへみそをつけたもの。腹一杯たべると眠くなつて、ゴリキーマ母を読みながら寝てしまひ、眼がさめたら十一時半でした。どうしてこんなに眠れたのか。この間中の睡眠不足が仕事(小さい仕事だのに)すんで安心したので、どつと疲れに出たのかしら。

起きて、あなたの七日づけ、八日づけの手紙を見ました。蔵書印をどうも有難う。その印を押す時に一応分類してNo.を入れるといいと思ひます。大分面^{つづ}休でせうが。分類は大ザツパに哲学(哲学古典、哲学史、解説書、科学(歴史科学―「歴史古典、歴史論、歴史叙述、伝記、経済学、法学、その他」、自然科学―「自然科学史と理論」)、芸術(芸術論、文学作品、絵画彫刻、音楽)、辞書類、雑(ジャーナリストイックなもの、他には入らぬもの)等々、あなたの思ふやうにして下さい。分類も実は困難な仕事で、どれに入れていいかわからぬものが多いのですが、それが現実と云ふものです。

No.は新しく買ふものは買った順に、古くからのものは大体歴史的な時代順にして、別にノートへつけておくのが一番いいのですが、さうなると中々の大仕事ですから、ゆつくり少しづつやつてみる気なら別として、さうでなければ、あなたの出来る程度でいいでせう。あなたの二階の部屋だけで、今約七百冊ありますね。座敷の本箱には三百冊近くあるかしら。そしてふうちゃんの押入れが若し二重になつてゐるなら千冊ぐらゐになるわけだ。こちらには四百冊ばかりあります(雑誌は別)。運送屋にある分や、看護婦さんの部屋の分を入れても二千五、六百冊で、数から云へば先づ大

したことはないのですが。

家はやはり探しておいて下さい。結局は僕もそちらへ行くのですから。僕が東京を引き上げるのは、召集の時とはきまつてゐません。ただ引き上げるまでに召集の来る可能性が多いと云ふだけです。召集も大体二回（第二国民兵役―編者注）は三ヶ月の教育が多いのですが、教育がすんで帰るとすぐまた召集が来るのが普通です。

いろいろと着物について苦労してくれてありがたう。こちらでは和服は用ひないつもりです。あなたのつくつてくれるものなら何でも結構です。簡単に仕事ができやすく、そのままちよつと外へも出られさうなもの。形がかはつてゐるからと云つて、それを着て出るのをはづかしがるやうな傾向はもうなくなりました。尤も花^{ハナ}ご^ゴのやうはハデなのはまだまだいいやですが。

キプリングも買つておいていいと思ひます。ちよつといい本はどん／＼買つておく方がよろしい。今に何にも出なくなります。本が一番安いものとも云へるでせう。

空襲について大分心配してゐるやうですが、僕が原宿を引きはらつた一つの理由は、ここが空襲に対して一番安全だと思つたからでもあります。二十人ぐらゐは入るコンクリートの築山のやうな防空壕^{ウツロ}もあるし、食糧も近処が百姓屋で何とかなるし、バクダンの落ちる危険も少いし。その点はいねちやんのアパートについて大分心配なので、二、三日前にいねちやんの来た時、この近くか何かへ引つこす気はないかと云つたのですが、いねちやんにはアパートが気に入つてゐて、一番あそこが安全だと思つてゐるらしいやうでした。空襲ぐらゐでは僕は死にません。ツル田君の言葉ぢやないが、天にかくれ地にもぐつても生きのびて歴史を見たい、歴史に参加したい、さう云ふ時代なのですから。

身体の異常はその後どうですか。赤ん坊が出来たとすれば、僕も嬉しいが、それよりあなたの方が心配だから、やはり出来ない方がいいのかも知れませんが。僕にとつて、あなたの身体はかけがへない。どうか大切にして下さい。

早川君に今日もナスを持つて行くつもりです。ヤサイは隔日に大体五百匁から一貫目ぐらゐ、馴染の農家で売つてくれるし、三日か四日置きにもう一軒で、やはり一貫か一貫五百買つてゐます。

下駄とリンゴと届きました。有難う。いつかの赤ヂソは大変おいしくて重宝してゐます。ココアはこちらでもまだありさうですから、赤ヂソだけ買へたら買つておいて下さい。こちらから送るものがなくて残念です。この下駄は外出に使ひます。今までののはハバがひろいので、電車の混む時など大分苦勞します。

それはさうと看護婦さんの押入れの僕の原稿見ましたか。あれの独立戦争の部分を目下書きなほしてゐるのです。

では今日は之だけ。

幸子から謙一あて（一九四四年九月二一日の記）

九月十一日（月）

今日こそと思つてゐたら、家の前の気賀沢さん（菓子商）で出征、組合にももう一人出征（国民兵二十八才と三十二才）があつたので、終日（九時―午後七時）お手伝ひでへトくへに疲れました。九時前は掃除と郵便局ゆき（小包出しに）。どうも全く憂鬱です。モンペの包みの中には、するめと煮干をすこし入れましたから、楽しみに食べて下さい。

今日その後で林ごと梨を貰ひました。もうすこし早かつたら二、三個づつ、包みの中に一諸（お）に入れられたのに。甘い棒パンも一回分位、菓子屋の手伝ひで貰ひました。一寸早く小包み出しすぎたわ。一諸に送れたら―ね。

此の一週間、一寸も勉強せず、ゴタくした家事的手伝ひばかりして、かぼちや、おさつ、果物をたへまなしにパクついたので、忽ち10貫になりました。こんな風に果物がずつと食べられたら、まもなく脚気（お）もなをるでせう。あんまりよく食べるチャンスがあるので、外の人たちにすまない様な気がします。尼ヶ崎の子供たちはお八ツなんか、とても食べられ相ありませんものね。こちらに帰つて早苗のデブチャン振りに二度びつくりの形ですもの。

今日他所へ手伝ひに行つて、又もや感じた事ですが、どうも私には何処へ行つてもついてまはる自己意識と云ふか何と云ふのか―そんな気持がついてまはつて、後々まで後味わるくて困ります。其の点フーチャンはすぐ人々と同化して楽にやつてゆけるのですが。

今日はお手伝ひで（いもの皮むき、林ごの皮むき、お茶碗洗ひ、後片附等々）相当くたびれた様で、手紙を書きかけても字がスラ／＼出て来ず、目もチラ／＼致します。こんな頭ではろくな事は書け相もありませんから、今夜は一応よしにしませう。早々に休まうと存じます。床の中で又ラニイさんに逢ひます。ラニイは何度読んでも好きな少年です。ラニイさんに逢ふ前に、ソ聯だよりをもう一度よみませう。

十月十一日、八時半

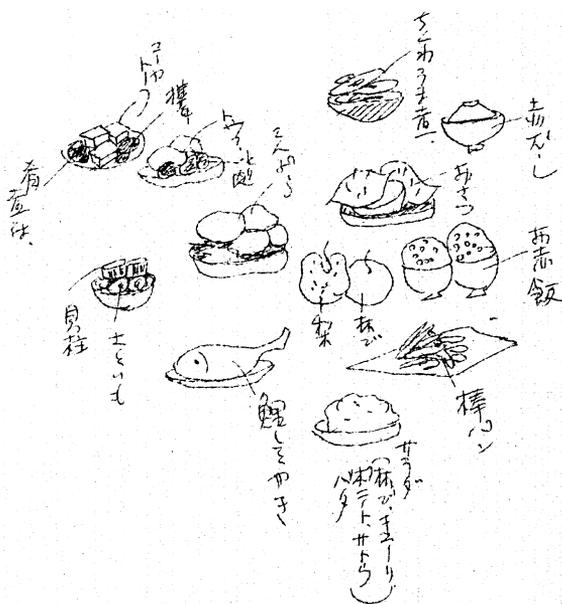
看板の通り50個位の梨と林ごの皮むきをしました。

今日のお手伝ひで、これ丈ごち走を食べました。菓子屋だから砂糖はふんだん、バタもありました。東京の人がみたら、キヤツと云ひ相でせう。やめるくと云ひ乍ら□□□の猫になりましたから。今夜はこれで サヨウナラ。



幸子から謙一あて（一九四四年九月一二日の記・消印）※

九月十二日、雨。
今日はビシヨの雨降りです。五時半に起きて、出征兵士送りを致しました。菓子屋の息子が挨拶して、敵米英を必ず



うちこらして来ます。後に残った家族の者を宜しく御めんどうお頼み致します”と云ひました。天竜社の前に大勢集まつて、海ゆかば、吾が大君に召されたる、を歌ふ中を学校にゆきました。

学校―鼎役^{（編者注）}まではフーチャン一人送つてゆきました。私共はそのあと招たいされて、どんなに断つても引つぱられ、又々いろいろとごち走になり、苦しくて困りました。出征者の妻君は今流行の戦時病にかかつて、足はかつけと同じ症状を起し、咽喉を犯されて声が立ゝないのですが、元氣を出してはしやぎまはつてゐました。あなたにお召しの有つた時、私もあんなに元氣を出せるかしらと思ひ乍らみて来ました。

其の家はこんな（寡婦の母、兄夫婦とその子四人、弟夫婦とその子一人の血縁関係図が記されているが、ここでは省略した―編者注）家で拾人一^{（編者注）}諸に暮し、兄弟の嫁は実の姉妹です。七月まで兄の方が兵隊で、兄が病気で除隊になると、一ヶ月半目に弟が征く事になったのです。兄の子も弟の子も姉妹で区別なしに育ててゐるし、後の心配はあまりない様なものの、征く人や送る妻としては、何時帰つて来るのか、或は帰つて来ぬのか、はつきりしない不安で淋しい事せうね。

今日は雨降りですから誰も訪ねて来ないせうし、家中ひっそり、早苗ちゃんの声だけ賑かです。久しぶりにプラン通りの勉強致しませう。今日はリンカーンの訳とグランマーと、夜はモルガンにするヨ定です。

私達こんなに別れ々々に暮してゐると、随分お互ひの生活感情が差異を生じて来るでせうね。いくら手紙を出したり貰つたりしてゐても、手紙丈ではほんの一部分しか伝へられませんか。勉強だつて、私一人で同じ方向へ志してチビ々やつてゐても、矢張り異つて来るでせうね。日常の一寸した話が、起つた身のまはりの事についての話合ひ、感想のべ合ひなどが、同じ生活感情を作つてゆくものですから。

それに私一人のんびりと御飯ごしらへもせず食べて暮してゐるのに、あなたは一切何も彼も自分でやつてゆかなくてはならないし、おいしいものもめつたに食べられないのでせう。今はさう云ふ形態もし様のないことと理性の上では肯定しても、感情の上では芯から納得出来ず、落ちつかぬ気持になります。

ダイヤモンドの原稿の方は皆すみすみましたか。ままとまつたら切り抜きを見せて下さい。本の方のは校正は皆終つたんでしたね。十月にはいつたら出版され相ですか。

伊藤新一さんはどうなすつたかしら。あれつ切、返事も来ないけれど、貸^{（編者注）}りて置く部屋は不用かしら。今のうちなら都合着くでせうが、もう暫くすると都市の妊産婦などで危いでせう。早川さんたちは家中誰も疎解^{（編者注）}しないんですね。早川さんのところは大丈夫の地帯なんでせうか。早川さん御夫妻にはよろしくお伝へ下さい。カンタロウ^{（編者注）}ウチャンは大きな

つたでせうね。

あまり毎日私の手紙が行つては、人にひやかされますか。何なら二日に一度にしませうか。ためて置いて切手を二枚はれば同じです。

これから羽仁さんの歴史を一寸おひるまで読みます。リンカーンは予定のところまでやりました。割に此のごろ楽になつて来ました（尤も今日のところはやさしすぎたのかしら）。

茨城ゆきは考へてゐます。旅行すると、前後勉強出来ないのです。大金さんは近日、茨城の煙草専売局の収納係に就職する相です。東京へは一寸行つてみたい気もありますが、それも買ひ物はないし、見るものもなし、食べ物はなしです。主目的はあなたに逢ふ事なので、無駄な旅行の中にいれられるでせう。それよりも十一月始めころにでも、和歌山に行つた方がよささうです。

利ちやんが訪ねたら、一度信州に来る様に云つて下さい。秋の信濃の山を一諸に歩きたいものです。利ちやんにも先頃、さう云ふ手紙を出しましたが、あの人は遠慮深いから、ついでの時あなたからも云つて下さい。

九月十二日、雨ふりの日

謙一様

幸子

※以下の九月一二日記の手紙文は、九月一三日付け、同日消印の封筒に入っており、その一つ手前の手紙の封筒は九月一二日付け、同日消印で、中身は九月一三日記の手紙であった。これら二つの封書の中身が入れ替わったものと考えられるので、ここではそれぞれの手紙文を元に戻す形で記載した。

謙一から幸子あて（一九四四年九月一三日の記）

九月十三日（水）晴。

二、三日手紙を書けませんでした。あなたの手紙は毎日受取つてゐたのに。本の校正（再校）が一度にどつと出て、今日やつと了り、間もなく校了、印刷、製本、出版となるわけです。多分早ければ十月末、遅くとも十一月には出版になるでせう。僕の誕生日までに出来ればいいが。

九月十日(あなたの手紙は九月八日附のものまで八月八日になつてみました)の夜は、早川君とこへ行つて、また泊ることを断はるのに一苦勞し、大分遅く帰りました。代りの小使さんが来るまで家をあけられないのです。一色家ではこの頃ずつと帰京してゐたのですが、調査会としてやはり職員が夜家にゐなければならぬのです(実際はどうでもなるのでせうが)。早川君の奥さんは両眼結膜炎で、大熊さんに診て貰つて憂慮すべき状態と云はれたとかで、いつもより元気がありませんでした。旅行の話をして豊橋で休む所もなく困つたと云つたら、「それなら私の家を紹介しておけばよかつた」と残念がりました。彼女の実家は豊橋市の河の近くのなださうです。

九月十一日(月)晴、曇。この日は本室へ行つて芦野理事に報告し、旅費の追加四十円受取りました。帰りに伊藤書店へ寄つて校正を全部受取り、鶴田君とオシヤベリし、二人で雑炊食堂のうどんを食べました。それから青山へまわつて、缶詰のことを斎藤さんに頼み、若干の荷物を辻岡さんから受取りました。ひろちゃんには既に和歌山へ歸つてゐました。彼の都会的なズルサをいろいろ感じさせられて不愉快でした。利ちやんの方が人間的に誠実のやうです。彼は目下試験中。

それから歸つて、ずつと校正の仕上げに没頭したわけです。全体で本文四百頁、年表五〇頁、目次その他二〇頁、再校でなほす所は少いのですが、一応すつかり目を通し、数字をもう一度原稿とひきくらべ、註の横文字を調べるのも苦勞で、十一日の夜と十二日一杯と、十三日の午後までかかつて了りました。そのために、あなたへ手紙を書く余いもなかつたのです。

初校の校正刷りを送ります。汚いけれど読んでみて下さい。今までにこれを読んだのは著者たる僕の外は、鶴田君と出版会の誰かと印刷工とだけです。読みにくいところをがまんして、ゆつくりでいいからよく読んで下さい。緒論は同時に結論でもあるので少しムツカシイ(鶴田君もさう云ふ)が、一通りサツと読んで、本論第一章からゆつくり読んでみて下さい。第四章まで終つたら、もう一度緒論を読んで下さるとよくわかるかと思ひます。地図及び年表も参照するといいでせう。押しつけがましいけれど、あなたに読んでもらふことを切望してゐます。

九月八日附お手紙の、上島さんの二階とやら、よかつたら借りたらいかがが。僕も本さへ買はなければ、七十円ぐらいまでは送金出来るでせう。一人で家賃も要らず、野菜の雑炊ばかり食べてゐるのですから要るわけではないのですが、時々外へ榮養つけに出るから、八十五円ぐらい残しておけばいいと思つてゐます。あさちやんとでも住みなさい。僕も行きたいが、とにかくあと三、四ヶ月は行けないでせう。

こちらでは国債貯金の月一〇円、保険の一〇円があるだけです。外に小使さんに一〇円あげます。

今日は小魚、スルメ、モンペイ有難う。モンペイはいてみました。中々よろしい。もう一つあれば、冬中大丈夫と思ひます。中々うまくなったものだと、あなたの裁縫を見なほしました。だが、まだミシンを使ふ手つきがあぶなつかしいから、注意して下さい。

小魚、スルメは、近頃外でたべる時の外全然動物質がなかつたので、大変有難いです。いろいろ御心づくし有難く思ひますが、さう無理しないやうに。僕もこの頃はたつぷりたべてゐます。毎日たつぷりと雑炊をたべる外、ムシパンを朝夕たべます。雑炊にするわけは、おかずを別に煮なくていいし、ミソ、シヨウ油をケン約出来るから。ミソは一ヶ月分を半月でおしまひにしました。ヤサイばかりだと蛋白質がたりないので、大豆やささげや凍豆腐やみそを必要とするのです。メリケン粉もまだ半分以上あります。ササゲもまだ少し残つてゐます。ササゲは実に重宝してゐます。メリケン粉もこちらで何とか手に入れたと思つてはゐるのですが、困難で見込みありません。併しあなたが、さう亭主孝行ぶりを發揮すると、ヒンシユクされるでせうから、本当にムリしないで下さい。

僕の詩は大分構想が雄大(?)なので、少しづつすすめてはゐますが、例によつて完成するかどうか疑問です。僕は、自分の能力や精力が貧弱のくせに、慾が深すぎて、構想を大きくしすぎ、そのため大ていのものが未完成で、或ひは中途半端で終りさうです。中学の朝鮮旅行でも旅行記の大ゲサなものを計画して、三分の一ぐらいで終つたし、病臥中小説(自分の生ひ立ち)を書きはじめて、之も幼稚園ぐらいで中絶。卒業論文も国サイ聯盟をやるつもりで、ウイルソンの参戦までしか行かず、南北戦争にいたつてはまだ独立戦争までしか行かない。今度の本も自分の書くつもりでゐたこととの半分ぐらいしか書けなかつた。殊に工業や南部の政治、南部の社会等は素描しか出来なかつた。今構想中の詩も、我々二人の八年間の生活とこの期間の歴史とを唄ひ込まうとしてはゐるのですが。

昨日の雨で大分涼しくなりました。雨はひどく、野菜の買ひ出しでビショ／＼になりました。野菜はカボチャと菜つ葉です。カボチャは之でおしまひ(小さいのばかり)だが、菜葉さいばは之から出はじめるのでせう。

今僕のやつてゐること、独立戦争の原稿。Laechを読むこと。数学。ゴリーキー。作詩。之だけです。ピアノは今、ひまがないので中絶です。

それからフクラシ粉をまた買つておいて下さい。まだ／＼ありますが、そちらでもなくなると困るので。下駄は重宝してゐます。

ではお母様、不二ちゃんにどうかよろしく。之からユービンを出して来ます。

幸子から謙一あて（一九四四年九月一三日の記・消印）

九月十三日（水）晴

九日、十日分の手紙、午前中落手致しました。

ダイヤモンドの原稿終つた相でよかつたこと。相当長いものになつたのですね。私は此の前、話を聞いた時には、セイゼイ卅枚位のもの様に思つてゐました。一寸読んだ部分は黒人の事の様でしたけれど、テーマは何だつたの？

東京もまだごち走はあるところにはあるんですね。ね段は上つてゐるのかしら。おさつは世田ヶ谷のお百姓さんの所で、まだ売つてくれないのですか。こちらはもうチヨイくはいります。あなたがゐる時、お初を貰つたでせう。あれをトツ

プとして、段々形も大きく、味もおいしくなつてゆきます。今日は皆の三時のお茶用の茶菓子が無いので、診察室のわきのを掘り起しました。まだ少さいのが八分通り、一寸位の厚みのが一分、一寸五分位のが一分の割合でした。

まだ早い〜と云つたんですが、お母さんは早くても晩くてもかまはんとこの事で、もつたないけれど起しました。ふかしたらすばらしく味のうまいおさつでした。あんなところで私やお母さんの下手に植えたのでも、普通に出て来るのですね。水をまいたり草もむしつたり、暑い時に世話をしたおいもなので、お母さんがその半分を来た人に呉れてやるのが残念でした。さう云ふと何時も〜、お母さんにお前も不二子もけちくさくて嫌だ。東京のセセコマしい生活をして来た者は、これだからしみつたれと云ふんだとのこと。或はさう云ふ通りかも知れませんか。ある時はドシ〜あげるから、人も帳面に毎日書きこむ程、何やかやと呉れるのでせう。

朝ちやんの仕事は決まり相です。上郷・別府（ここからすぐ）に十月一日から出来る保健署で、署長は関ドクトル（お父さんの仲よし）、あさちやんの仕事は宮養師、サラリイは五〇円とのこと。少いが手当で何とかし様と、関ドクトルのお話です。部屋もうまくゆき相だし、一安心です。履歴書、身分証明書、戸籍抄本をそろへて長の県庁に提出して、許可をうければいい相です。

ふとん袋は明日もう一度探しませう。みつちやんのところへ行つてはゐないでせうね。こちらでは本を移す時、あり相などころは一応調べましたけれど、み当りませんでしたの。まさか何かの箱の中に入れてはなかつたでせうね。前、教

次さん達の引越に貸したのは返して貰ったのかしら？ 私の疎解（解）に使ったのは運送屋が来た時二つ使つて、一あれはあなたの帰る時とひろちゃんの帰るとき持つていったし、一大体あの二つは利ちゃんのひろちゃんのだったでせう。あの時からあなたは無かつたのぢやないかしら。私がこちらに来てから届いたふとんづつみは二度目にあなたが来た時、持つてゆかなかつたかしら。まあ、とに角もう一度探してみます。

本の整理は今一寸、一人では出来ません。一日や半日では出来るものでなく、全部出して調べて分類するとなつたら、広い部屋（びやう）も出したまゝに一週間位おいて整理する場所も入用ですから、何処か家でもみつかつて越した時にでなくちゃ六理（ろり）でせう。

モンペはまだ届かないのね。中がどうかしら。形はうまく出来てゐると思ひましたが、着て見なくては着心持よいかかわりかわかりませんね。着心持よくつて、始終普段に使へたらうれしいんだけど。

「赤しそ」は早速買ひにゆきましたら、赤しそもごま塩ももうありませんでした。たらと青海苔のふりかけがあつて、店では品もよいとの保証つきでしたので、三個買つて来ました。お母さんは私も買つたけど、誰も食べなくて失敗だったから、よせよ返しなさいと云ふのよ。それでとに角、一ツ破いて開けて試食したら、それ程わるくない、近頃のものとしては上出来だと思ひますから、破かなかつたのを二個、何か他のものと一諸（しよ）に送ります。お腕（うで）にいられておショーユ少々と熱湯を注いだら、おすましになるでせう。きざみ葱をパリといれてもいいと思ひます。

下駄は凄いで下駄だつたでせう。すぐ鼻緒が切れ相でせう。こちらでお手製のはな緒ととりかへ様かとも思ひましたが、ま新しいのをわざと取る事もないと思つて、其のまにしました。

身体の方はあのまゝ変化ありません。おくれるにしてもあまりおくれすぎますね。それに太つたのかどうしたのか、ウエストがすこし太くなりました。

幸子から謙一あて（一九四四年九月一四日の記）

九月十四日（木）晴29。

おかしい事、今日（十四日午後四時）あなたの手紙（七、八、九日分）スタンプは9-9のが着きました。六日間かかってゐる。昨日は九、一〇日分で9-11スタンプが13日に着いてゐるのです。一日先に出したのが、一日あとに着くな

んて変ですね。何処かでストップしてゐたのかしら。昨日、どうも七、八日分がないなアとは思つたけれど、用が多くて抜かしたんだらうと思つたのです。順序が変だと読む時、何だか妙で落ちつきませんね。

一諸にあさちやんの12日投函、内藤嬢12日、利ちやん12日のが来ました。朝ちやんは荷物発送済みだ相です。

お豆は貰つたら又送りませう。新しいのはまだ出ませんから、もつと後になるでせうね。大豆は枝豆の豆です。枝豆はまだ青いから、あれが乾いて黄いろくなつてから採るのでせう。

ホキットマンの詩を読んでゐるのね。ぐうぜん此のごろ私もねる前は、ホキットマンをすこしづつよんでゐました。ホキットマンは私のもつと現代の人かと思つてゐました。案外古い人なのですね。リンカーンと友達だつた相ですから。私は今世紀に這入つてから死んだ人位に思つてゐました。こちらにあるのは草の葉（文庫）です。英語のでよんだ方がリズムの浪があつて、ずつと感情の高い調子でゆすぶられるだらうと感じられます。

私の六日の手紙、どんな事を書いたか忘れましたが、そちらでのあなたの仕事生活を中断させ様などと思つてる訳ぢやありません。淋しいとか何とかぐちを云つたのなら、本当にわるかつたのね。そんな事は気にしないで充実した勉強生活して下さい。私も、もう一生懸命充実した生活をする様にしてみますから。

此の前のあなたの手紙で、今の私のするべき生活方針を書いて下さつたから、あまり勉強くくと机の上の勉強にこだはらず、今の生活の中で人にも自分にも誠実に最善をつくす様にし乍ら、一方勉強も積極的に続けて行く事にしましたので、すこし前の様に時間割通りに9—10まで出来なかつたとか、他の用のために何も読めなかつたとか、あせつたり悲観したりしない心がまへをし始めました。他の用事や洗濯や縫ひもの、おつかひ、掃除なども一定の決まつた以外にしないでならぬ時は、あゝ嫌だなアと苦々しく思つたものですが、これも人生勉強だと思つたら楽になりました。さうして夜などの残つた時間は、飢え切つた心持で時間割に飛びつきますから、時間は短くても結局、得るものは多いと云ふ事になり相です。そんなわけで勉強出来ないくとか、ぐちつばい不平つばい気持から解放されつつあります。自然私の考へも多に健康にならうと云ふものですから、どうぞ心配しないで下さい。安心して短い期間を、充分研究三昧にして下さい。それは一諸に勉強生活が持てたら、そんなにいい事はありません。併し、むりやり早く疎解せよとは願ひませんから、板ばさみの苦しみをなさらぬ様。あなたもそちらで充実した生活を築きつつ、私も置かれた生活の中でさうしませう。さうして私はあなたを信頼しつつ、心豊かに暮らします。今後多分ぐちは云はないし、ぐちつばい心情生活は持たぬつもりです。

以上、私の淋しがりのために、そちらでの勉強生活を必要以上に早く切りあげる様な気持ちを起させる事は芯からありませんから、安心してたつぷり勉強して下さい。従つて何時までに帰つてほしいとか帰らねばならぬとか一はも早問題ではなくなりました。それにあなたの云ふ様に、もう暫く別の暮しをした方が人間修養のためにも善いでせう。今日の手紙で切りぬきを送るとあるのに、同封されてゐませんでした。忘れたのでせうね。気がついたら此の次のに下さい。「南部の奴隷制度」の原稿はざつと千枚もあるんですね。毎日すこしづつ読む事に致しませう。



昨夜はお母さんが童謡。石橋さんと活動にゆきましたので、私と不二ちゃんとお喋りし乍らぬいものをしました。私の縫つたのは古い、紫地に白で紫陽花を染めぬいたゆかた地を、といて洗つて張つて断つて、一サラリとしたねまきを作りました。下はパジャマ式、上は布地の不足のため襦袢の様な格好にしました。こんな風。ジュードー着みたいでせう。あの白いデシンのお姫様の様なのは、もうそろそろ肩が寒いから昨夜でおしまひ、今夜から上図のは、もうそろそろ肩が寒いから昨夜でせう。夏は何とかまにあふけど、これからはネマキに致します。ねまきと云へば、あなたはねまきあつて？ 多分ないでせう。夏は何とかまにあふけど、これから入用ね。何とかしませう。又々創意をこらして作りますから楽しみにまつてゐて下さい。

今日は石橋さんから、面白い三穂村の床やさんの話を聞きました。村にたつた一軒の床屋で50才位のお婆アさんで、石橋さんが髪かりに行つたら、まアお茶でも飲んでからと云つてお茶を出して、その中奥から兵隊に行つてゐる息子（たうとう）の写真や小学校の卒業証書も出して来て、自まんやら何やら一時間位、さうして髪を剃にかかつたと思ふと、さうくうさぎにエをやるのを忘れとつたで、と云つて何処かへ行つちまつて、もう帰るかくとまつてゐたら、一町位離れた原つばまで草をとりに行つて帰つて来た。その間彼は白い布をまかれたま、30分もまつてゐたわけ（白い布をまるとた人の上半身図は省略―編者注）。帰つて来てすこしかると、「胃が痛んで来たで」と云つて、とやまの袋から熊の胃を出してゆつくりのんで、なをるまでユウユウと新聞をよむ。

それから頭を刈つて顔剃にかかると、「どうな、一寸疲れたで、一諸にひるねせまいか」と云つて、とくく一時間位ひるねをする。ようく起きて又始め、顔にシャボン（たうとう）をぬつて置いて、「さうくお湯を沸さにや」と云つて又三十分もまつ。ようく終つたのが四時半ころで、「ヤレくそいぢやお夕飯でも食べておくんなんやれ」とて夕飯を



食べ、「いくら？」と云つたら、「さうだなも、こんなものでも世五錢も貰つておくかなも」とのこと。一時前に散髪に出て帰つて来たら七時ころだったか。

ある朝、その床やの前を早く通つたら、其の婆アさんが人通りの往来に向つて、大きなり響く様な声で、「……サイパン、テナヤン、大宮島、トラック、パラオ」云々と、もうとられてしまつた島々の名前までもを20位もとなへあげて、「其のすみずみに至る兵隊さんを守らせ給へ、わが日の本と云ふ国の名前を立てさへ給へ！」と、想像もつかない様な大きな願ひ事を祈つてゐた相です。それでも結構商売は成り立つてゆくらしいとの事です。

夕飯後は皆で茶のまに集まつて、ときもの、なをしもの、ぬひものをしました。誰も手がすいてゐないので、本をよむわけにはゆかぬから、私がリチャード獅子心王の話、十字軍の話、イタリイの都市国家の話、マホメットの話など、チヨコく致し、多いに皆の歴史的関心を煽つたつもりです。9時すぎて電報と云はれ、私のドキツとしたこと、顔(色)が変つたかも知れません。フーチヤンは追ひかける様に「菊池さん、応召かも知れん」と云ふので、嫌な事を云ふと思ひました。何のこと、戸を閉めてあるので、ずるい患者さんがそんな事を云つたらしいのでした。心臓が苦しい位心配したのに。でも覚悟してゐなくてはなりませんね。覚悟してゐても、其の時は矢張りドキン／＼する事でせうが。ではあまり長くなりましたから。これからホキツトマンか南北戦争か一時間よみませう。

九月十四日夜十時

幸子

謙一様

幸子から謙一あて（一九四四年九月一五〜一七日の記、一八日の消印）

十三日附のお手紙並に校正三束、十五日午後三時落手致しました。

モンペはお気に召した様でうれしかったわ。寸法もよかつたかしら。其中モメンの布地をみつつけて、もう一枚縫ひませう。あれもモメンのパリ／＼ですから、きつとこの上なく丈夫です。おしりとひざには裏うちしました。ダブルにな

つてみます。

昨夜は床の中にはいって、南部の奴隷制度の緒論だけよみました。毎晩ねる前、三十ページ位よもうと計画したのですが、校正が届きましたから、あちらは一まづ置いて、今度の方を早速始めます。

ホキットマンと高村光太郎と相通ふところがある様に感じました。ホキットマンを読んで居ると、高村光太郎の古い詩を思ひ出すのです。其処には大きな相違はあるのでせうが。

日本の詩人と云ふものの概念と西洋の詩人と云ふものと、まるで異ひますのね。日本の詩人は美しい言葉をバラリとならべ得る人、位のところではないかしら。ヒューメンな、人をつき動かし、ふるひ立ゝせ、感激させ、涙を流させる積極性はありませんね。花でも風景でも単に其の美しさと、そこに一寸感じたデリケートな感想を述べた詩が多く、其ことから人間に、人間の生活に、其の背後につながる強いたくましいつながりが見出せません。そして息づまる様な感情や思想の高まりも感じられません。結局、俳句や和歌より^④がすこし多い位ではないでせうか。

朝ちやんの疎解荷物はもう届きました。私共のたらひはバラ／＼に解体して来ました。今日は家事的雑用、客のせつたいを無事つとめつつ、日課のリンカーンの訳もグランマーもモルガンも、すこしづつ乍ら一応出来ましたし、入浴し髪も洗ひ香水もつけ、洗ひ立てのブラウスや下着をつけ、何とも云へずよい心持。あまり歌がまづくなつたので30分程、歌の練習もしました。

粉は割合近頃うまくゆきますから、又送つてあげませう。オヤキをどん／＼作つても大丈夫、続いて切れぬ様にしてあげます。今日はオセキハン、お煮、牛肉等、十五日なのでごち走です。あなたは今夜は何を食べましたか。オ雑炊ばかりもあきるでせう。もうそろ／＼あくびの連発ですから、下へ行つて一服して、床へはいつて原稿よみにします。あとはあしたの朝。

おやすみなさい。

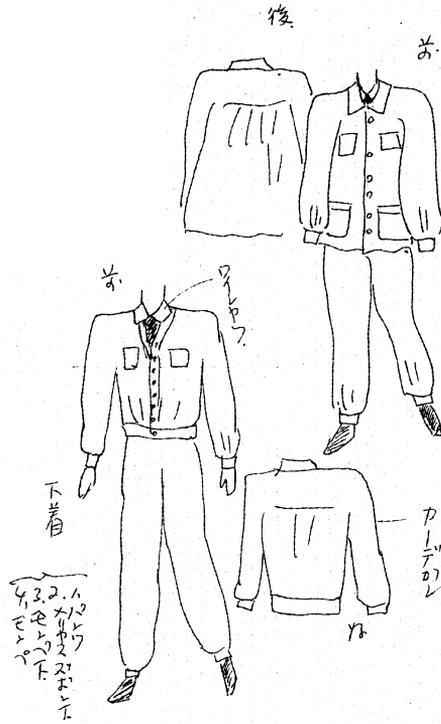
九月十五日夜一〇時

幸子

九月十六日夜。

今日は何だか用事多く、机に向ふ時間はあまりありませんでしたので、手紙が書けませんでした。日課の分も^{1/3}だけ。これからローザの経済史はすこしよみます。地代論の方は此の前もさうだつたけど、とう／＼出来相もありません。

ブルース（仕事着）



あなたの和服式上着は一まづみあはせ、別紙の図の様なものにします。今度の方が目新しくなくて、そのまゝ外へ出てもいいでせうから。

明日あたりからカーディガンを作ります。当分これでまに合ふでせう。少々寒くなるまでにはブルーズを作って送ります。下着の方の③モンペ下は二、三日中にぬひます。当分のうちメリヤス使用には早いと云ふ時、穿くとピツタリ肌には着かず、着心持よいでせう。

冬はメリヤスの上に穿いておくと案外暖かで、其の上にモンペを穿くといいでせう。どんなのがゆくか楽しみにして下さい。

今夜は気の毒な娘さんが患者で来ました。定休日で誰もゐなかつたので私が玄関にゆくと、女の人が頭からずぶ濡れて三人立ってゐて、みてほしいとのこと。あまり様子が変なので

訳をきいたら、一人は50才位の人、一人は20才位、一人は24か25位で、20才位の人は話中ばにすつと何処かへ消えてしまひました。若い娘はヨコハマの人で、二、三日気が変でゐたので診察に連れて来たら、途中で貧血を起して河へ落ちたとのこと。濡れたまゝでは上れもしないので、ユカタやひもや羽織を出して大きなバスタオルを持って行つてあげました。

何時までもシチャモチヤしてゐる様子なので、又見に行つたら、24才位の人は嫌がつて濡れたものをぬがないのです。其の娘はヤせて細くてまつ青で、川みち子みたいになかくこうで、顔はもつときれいでした。手伝つてぬがせましたが、一言も口をきかないし、身体もコチン／＼かたくしてゐるのよ。50位の女の人が近所の親類に行つてキモノをとりかへ

てくるが、外へ飛びだすかも知れないからと云ふので、私はそばで番をしてゐました。椅子に腰かけて身動きもせず、涙をポタ／＼と流してゐる丈です。もう一人の消えた女の人は、河から上げる時そばを通りかかつて手つだつてくれた人だ相でした。

後からお父さんから聞いたなら、「喬木村(天竜の向ふ側)の50才位の女の人の息子で、ヨコハマの高商へ行つてゐた人が出征したら、一日おくれて其の娘が来た。息子と何か訳があつて婚約してゐたが、一日ちがひで逢えなくて悲観してゐたので、すこしあそんでゆく様にと云つてゐたのだが、今日は家をとび出した。天竜峡へゆく」と云つてきかないので、なだめて連れ戻さうとしてゐるうち、河へとびこんでしまつた」と云ふこと。どうも本当のところは、息子がヨコハマで約束したかどうかしてゐる乍ら、召集にかこつけて逃げをうつたらしい、それで逢はぬサンダンをしたらしい。

娘は来て見て気落ちするし、一思ひ切つて自分がかう云ふものだと云つたところ、相手にされないもので、叔父か誰かを電報でよんで一諸に話をしたのだが、入籍はまだ早いと云つて、息子が帰つて来るまでは駄目だと云はれて、死ぬ気になつたらしい様な風で、ありふれた悲劇かも知れませんが、やせ細つた身体、凄いな美しさで、ロマンティックと云ふか―芝居の場面の様な感じがありました。今日はサイミンザイをのませて、羽生さんの家を借りて一晩ねかず事になりました。

ついで来た母親(姑)も全く困つてハラ／＼してゐました。其の人が宿の交渉に行つたあとで、お父さんが「思ひ詰める程苦しい事があつたら話なさい。出来る丈は骨折つてあげ様。医者だから秘密な事は口外する心配ない」と云つたら、一言も云はずハラ／＼涙を流してゐたとのこと。母親は気が変だと云つてゐましたが、気が変なのぢやないでせうね。相手の男も、男の家も絶望的な状態である事を知つて、死ぬ気でゐるんでせう。

どうもねむくなつて来ました。此の分だとヨ定の勉強はズレますが、明日は日曜日で時間割なしだから、残つたのは明日やりませう。これからあなたの原稿を床の中でよみます。緒論八頁まで昨夜読みましたが、そこまではさう六ヶしいとは思ひませんでした。前にあなたから聞いた事や、あなたの前の書いたもので、度々知つてゐた事でしたので。今夜のところはどうか？

ではおやすみなさい。

十六日夜9½

さち子

九月十七日、雨勝の日。

今朝早く、又精神病の女の人（35位）が裸で一人でやつて来ました。キモノを呉れてやれとの事、着物不足の時代に困るとは思ったが、雨に濡れて裸ではと思つて、二階に私のねまきを取りに来たら、もう帰つてしまひました。玄関前は相当の人だかり、まるで芝居の見物みたいでした。農村では春と秋との代り目の時、精神病がどつと出るのだとか云つてゐました。

先程、はらまきのクリーニングや修繕出来ましたから送ります。一諸にベーキングパウダーと、たらふりかけ二個、メリケン粉少々入れました。動物質のものは今日は一寸ありませんでした。林檎もおしまひになりました。

今日はあなたのカーデガン作りのため、布地を解いて（ミシン縫いのものであつたため、解くのに四時間かかりました）洗ひました。雨で乾き相もありませんから、明日アイロンかけをして、ふうちやんが断つて呉れます。布地はピュアウールでふうちやんが謙一さんに進呈すること、古いものですが、軽くて暖かさうな地質です。縫ふのは私ですから、うまくゆくかどうか、あはずゆつくり時間をかけて仕上げる心算。但し仮縫の代用になり相な人はゐず、寸法もかたんに取つたのしかないから、心もとない。楽しみにまつてゐて下さい。明日からお母さんの冬支度も、私と不二ちゃんとで受持つてこしらへる筈です。布地は新しいものは全然ないので、カーテンの古を洗つたり染めたりで、たつまでに相当の労力を要します。上着も下着も皆作るのですし、スベアが入用ですから大変です。併し夕飯後は茶のまに集まつて、誰かに本でも読んで貰ひ乍ら、毎日セツセとすこしづつ進行させませう。

昨夜プランテーション十四ページまで読みました。四月にして貰つた講義や、あなたの研究社のや民族叢書ので、読んでわかつてゐる事ばかりで、あまり理解困難とも思ひませんでしたし、息の長いにも少々なれて来てゐますが、五行も続いてゐて切れぬ文章には、何度も読み返して何が主でどうなつたか、細心の注意を要し、混乱して来てスラ／＼と頭にはいりきれぬ時があります。専門家が読むのなら、知つてゐる事実だから楽々と了解するのでせう。私や一般のレベルの読者は余程根気良くないと、中々着いてゆけぬかも知れないと思ひました。始終引つかかり乍らチチとして進むと、前に書いてあつた事との聯関がぼんやりして来さうにも思ひます。私が前にも六ヶしいと云つた事は、書かれた事実―内容の理解を云ふ前に、息の長い文章について呼吸困難を覚へる意味だつたのだと思ひます。

勿論、私の理解力の単純さが、抽象された理論の組み合わせがすこし複雑になると、一、一、ときほごし、楽に翻訳しつてなくては理解出来ぬと云ふ事が、大きな原因でせう。だから子供が国語読本をならひ乍ら単純Ⅱかたんなこと、

復雑Ⅱ入り組んで六づかしいこと、などと訳す様によんでゐるので、さう云ふ個所々に引つかかつて、其処へ注意を集中する結果、前後の聯関や全体の云はんとする意味を、了解するに至らぬのかも知れません。併も其の息の長い文章の組み合わせりの一つ一つが、エッセンスの如く濃いものであるので、ゆつくりゆつくり考へねばならないし、何ページまで今日は読もうとプラン立てても、一定のヨ定時間でそこまでゆけません。「プランテーション」もきつと長くかかつてやう／＼よみ上げられるでせう。

今日は野分の吹く日です。ひるまは暫く忘れてゐた田舎の秋を感じさせられました。記憶に残つてゐない様でゐて、それに逢ふと視覚からと皮膚からとでぞく／＼する程に強い感銘を受けます。萩もすゝきも白い野菊も咲き始めました。千里塚の吾木香、松虫草を思ひ出します。

九月中に遠山へ遠足します。遠山に菊池と云ふ国民学校の先生がゐて（山形、会津若松の人、21位、美術にキヨウ味あつて水彩を描く）、近頃家に来た人がゐるから、彼に案内頼もうと思ひます。朝ちゃんの来るのをまつて、秋の遠足シーンを開かうと云ふ訳。

お母さんは豊川稲荷へ石橋とんぼさんとゆく筈です。では今夜はこれで。これから地代論を少々やるつもり。

十七日夜八時

さようなら

謙一様

幸子

謙一から幸子あて（一九四四年九月一六〜一七日の記）

九月十六日（土）一雨。

雨ばかり続きます。涼しくなりました。出なくていいから雨も大してかまはないが、天気が悪いと野菜が出なくなるので困るのです。メウガぐらいなものです。

昨日はあなたへの手紙を書いてしまつてから、小ぬか雨の中を都心へ出ました。先づ神田伊藤書店へ寄りました。それから学士会館で食事して、外にも二、三、神田裏の支那料理屋の代用パンなどを食べ、「安物食いの銭失ひ」ぶりを発揮し、古本屋をあさつて、またまた金が欲しくなり、あきらめて本室へまわり、芦野、伊達その他庶務や会計の人々と会ひ、四時頃帰りました。学士会館の昼食は税のつく一歩手前ですが、さう悪くありません。パンもつきます。夜はピ

アノを少し叩きました。ぼつ／＼系統的に練習するつもりです。留守中吉武君が来たらしく、気の毒しました。あさちやんの仕事きまつて、一安心ですね。あさちやん、あれから見えないが、もう疎開したのかしら。

ふとん袋はやはり僕が持つて帰らなかつたのです。島村君へ貸したと云ふのは覚えてるませんが、信州へ疎開した時は、たしかに僕のと利ちやんのか何かだつたのでせう。僕が帰京する時（最初の疎開の時）、チツキのトランクはひろちやんのトランクで、あの中へふとん袋二つもは入る筈ありません。今いねちやんのがあるけれど、やはり相当かさばつてゐます。島村君に貸したと云ふのは、あなたのでせうか。我々のは二つ（僕のとあなたのと）ある筈ですね。何だか人に貸したり借りたりで、わけがわからなくなつたけれど、要するに引つ越すについて家中くまなく探したけれどなかつたので、目下僕の所には一つもないわけなのです。当分要らないけれど、気をつけておいて下さい。それを探すために家中ひつくり返すやうなことはないやうに。

本の分類も面^{めん}仕^じなことを云つてゐるのでなく、蔵書印を作ると云ふから、その印を押す時に一応分類して番号をうつておいて、それをノートへ書きとつておいて下さいと云ふのです。従つて全部の本でなく、せめてあなたの部屋へ出てゐる分だけでも、とにかく印をおす序でいいと云ふのです。全体^{ぜんたい}□は僕が行つてやるつもりです。だが、それも面倒なら、無論やらなくて結構です。外にすることが多いのに仕事をふやすのは気の毒だし、今までにそれだけ本をならべたのだから、さぞ大変だつたらうとお察ししてゐるのですから。

今日伊藤君から電話があつて、雨がひどくならなければ、午後四時頃経堂へ来ると云つて来ました。夕食を頼むと云ふので、カボチャ飯をたいて、ナスの油いため（油がもうぼつ／＼おしまひですが）とキウリのなまかじり、それにするめぐらいで間に合はせませう。

同日夜。

伊藤君は約束通りに四時少し過ぎに来ました。その直前に、ジャガイも三個と、いわし十匹と配給がありました。之はいづれも小使君と二人分ですが、小使君は今夜自分の家へ帰らしてくれと云ふので、僕のものになつたのです。

で、暫く駄弁つた後、彼が書庫を見てゐる間に火を起し、裏の庭の柿をもぎ、カボチャとジャガのは入つた飯（夫々丼に二杯分づつ）と、ナスビの油やき（大きいバケナスを四個ですから非常にタツプリ）、塩やきいわし五匹づつ、生キウリ、之だけの御馳走を作りました。「こんな御馳走久しぶりや」「冗談ぢやない」「いやほんとに、こんなにぎょうさ